

## 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校番号	66	学校名	阿木高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	「親和・自治・勤労」の校訓を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒を育成するとともに、有為な地域社会人を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな心と他人を思いやる心を持った生徒</li> <li>・心身ともにたくましく、忍耐力のある生徒</li> <li>・自ら学び、考え、行動する生徒</li> <li>・周囲の人と協働できる生徒</li> </ul>	
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業もしくは家庭（保育福祉・生活衣食）の専門学習を通した課題発見力・課題解決力の育成</li> <li>・少人数指導による「わかる授業」の展開、および「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・社会生活に必要な基礎学力を身に付ける「学び直し」授業の推進</li> </ul>	
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や地域交流などの校外の活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒</li> <li>・自ら学ぶ態度と基礎的基本的な学習を身に付けたい生徒</li> <li>・自身も他者に対しても、優しい気持ちと言葉で接することができる生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の多様な学習ニーズに対応するため、実態を把握し「組織的な対応・支援体制・指導形態」を再検討する</li> <li>・生徒の自立に向けて、最低限必要な能力や基本的な学力や技術を身に付けさせる</li> <li>・生徒の適性や進路等に応じて必要となる資質・能力を身に付けさせる</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標	
	学習指導	地域社会で自立して生きるために必要な基礎学力の定着と専門学習を通して主体的な学習態度を育成する授業改善を図る	
	進路指導	個に応じたキャリア教育の充実を図り、生徒の進路実現を支援する	
	生徒指導	教育相談・特別支援教育を充実させ、生徒・保護者に寄り添った支援を工夫する	
	教員研修	教員研修を充実させることで、全職員が一人一人の生徒に寄り添った指導や支援ができるようにする	

年度目標					年度末評価(自己評価)		
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るために、学び直し科目を充実させる	23 施策IV-23	①生徒による「授業評価アンケート」 ○関係項目のA、B評価80%以上を目標 ②授業改善のための授業参観の実施 ○評価指數B段階を目標 ③生徒・保護者による「学校評価アンケート」 ○「満足」指数80%以上	・公開授業週間、基礎力診断テストの実施 ・シラバスの訂正等が必要 →特に新入生用以外、新カリへの対応 ・HPの確認とメールによる情報発信 ・e教務運用しながら改善	B	○公開授業週間を実施し、保護者にも参加してもらえた。 ○e教務を運用しながら、利用しやすいように改善することができた。 ●各教室の「本時の目標」「まとめ」「ポイント」のプレートを使用し、すべての授業において視覚的に見通しが持てる授業にする。 ●HPの更新内容の精選、メール配布時に添付ファイル等も活用する。	B
	授業改善(ICTの活用)により生徒の意欲・関心を刺激し、基本的な知識・技能を身に付ける中で、「わかる」喜びを実感させる	9 施策II-9					
	言語活動を大切にし、表現力、思考力、コミュニケーション能力等、社会生活(専門科目)に必要な協働する力を高めさせる	8 施策II-8					
	将来のスペシャリストの育成のために必要な知識や技術を身に付けるため、地域連携、外部人材の活用や地域資源を生かした探求活動などを推進させる	14 施策II-14					
進路指導	進路行事を通して、自己の適性や能力、興味関心に合った進路選択ができるようする	13 施策II-13	①進路実現率 ○就職内定率100%を目標 ②キャリアコンサルティング面談後のアンケート ○進路選択のために有意義な成果が認められる ③生徒の自己評価アンケート ○「満足」指数80%以上	・C Cによる面談と面接練習で、自己理解や職業理解を深める ・C Cとのカンファレンスで職員間の共通理解を図り、指導につなげる ・求人開拓と、職員による面接練習の実施	B	○キャリアコンサルタントとの面談で、自己理解を深め、進路について考えることができた。 ○キャリアコンサルタントとのカンファレンスで、学年団と面談内容を共有することができた。 S C面談につなげたケースもあった。 ○少子化の影響で求人件数は増加している。職員による面接練習も多く回数を実施することができた。 ●生徒の特性に配慮した進路決定を支援する中で、教育相談や外部機関との連携が十分ではなかった。	B
	地域社会と積極的に連携し、思いやりや奉仕の心、行動力、責任感など社会性の向上に努める	4 施策I-4					
	キャリアコンサルティング面談やインターンシップを通して自己理解を深め、個に応じた進路選択を支援する	14 施策II-14					
	各教科や学校行事、実習等の体験を通して、自己理解を深め、自信をもって社会に出られるようにする	1 施策I-1					
生徒指導	生徒・保護者との信頼関係を構築し、安全・安心な学校生活が送れるよう丁寧な支援を心掛ける	3 施策I-3	①生徒・保護者による「学校評価アンケート」 ○関係項目のA、B評価80%以上を目標 ②教育相談、第三者懇談での聞き取り ○学校生活の満足度を判定基準とする ③個別の教育支援計画、個別指導カルテの活用 ○個に応じた支援・指導を行えたかを判断	・全校集会等での生徒指導講話の実施 ・全校生徒を対象とした、SOSの出し方に 関する講話や情報モラル講話を実施 ・S Cによるカウンセリングと情報共有、 職員会議での生徒情報共有	B	○11月に本校S CによるSOSの受け取り方に関する研修を全職員向けに実施することができ、SOSに対してチームで対応する大切さを学ぶことができた。 ○事案が発生した際にはすぐに全校集会等を実施し、多くの生徒がうなづき耳を傾けて聞き、自分事として考えることができた。 ●20日以上の欠席者数は20名となり、昨年同時期と同数であった。本人または保護者との面談を実施しているが、登校に至っていない生徒もいるのが課題である。	B
	日々の学校生活や各種行事や特別活動を通じて、社会性や適切な人間関係を身に付けさせる	1 施策I-1					
	地域連携や専門学科の学習・体験を通して、自己肯定感、自己効力感や自己有用感を高める支援を行う	7 施策I-7					
	共感的な指導、人権に配慮した指導を実践するとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応を図る	19 施策III-19					
教員研修	研修主事による職員の資質向上を図る研修を積極的に実施する	26 施策IV-26	①各職員の研修受講状況 ②時間外勤務状況や年次休暇等の取得状況 ③学校評価アンケートや学校運営協議会等からの意見	・本校の抱える問題や課題を解決するために、 職員研修会を実施 ・必要に応じて職員会議だけでなく、朝の職員 朝会等で情報交換を行い共通理解を図る ・担任、学年、教育相談等と密に連携を図り、 本人や保護者に適切な支援を行う	B	○学校評価アンケートから、授業内容や指導・支援方法、生徒への対応など、良かったと感じている生徒が90%を超える、保護者からも同様の評価を受けてい る。 ○進路指導・学年はもちろんのこと全職員が関わり、更にキャリアコンサルタントも活用しながら、個に応じた進路指導に繋げることができた。 ○S Cや外部との連携を図りながら、生徒や保護者への支援を行うことができた。 ●少人数授業をより生かした、授業内容や指導方法の改善、工夫を行う。	B
	特別支援コーディネーターを中心とした、生徒情報交換を定期的に行い職員間の共通理解を図り、多様な生徒に対応した研修会を実施する	21 施策IV-21					
	生徒の多様で複雑なニーズをより良く理解し、適切な支援につなげていくために、保護者や家庭、外部機関や専門家との連携を図る	20 施策IV-20					
	教職員の適正な勤務や効率化、心のケアに関する研修等を実施し、教職員が生き生きと働くことができる環境を整える	27 施策IV-27					

#### 来年度に向けての改善方策等

- 少人数指導を生かした授業や支援ができるように、校内研修や外部（小中学校、支援学校）に出向き学ばせてもらう。
- 生徒の特性に配慮した進路決定を支援するために、教育相談や外部機関、保護者との連携を図り取り組む。
- 外部機関による生徒の支援を活用し、生徒への支援を充実させる。また、その方法を職員も学ぶことで、職員のスキルアップを図る。
- 「心理的安全性」の高い「職場」「学校（クラス）」となるために取り組んでいく。

#### 学校関係者評価

実施日：令和7年1月29日

- 生徒一人一人に寄り添った継続的な指導や支援の結果、生徒たちがしっかりと成長している。
- 本校の取組が保護者にも伝わり、学校評価アンケートで高い評価を得ている。
- 一人でも多くの生徒が、学校や学科の代表として取り組ませることで、自己肯定感や自己有用感等を育ませ、成長させていくとよい。
- 地域や地域社会と連携、学びの場としてしていることは大変良い。
- 少人数授業をより生かした、授業内容や方法等を検討する必要がある。